

窓口は、地域住民や民間事業者と連携し、ささいな気付きでも相談してもらえる関係づくりや、気付いてもらえる仕組みづくり（地域の気付きの感度を上げる仕組み）が求められます。

## ■「気付き・相談のガイドライン」の作成

### ◆対象や目的の明確化

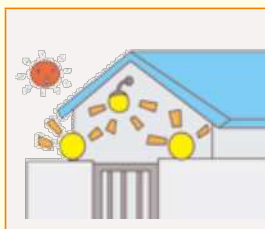
- ・気付き・相談のガイドラインを作成する際には、誰に向けたガイドラインなのか、といった対象や、どういった場面で活用するのか、といった目的によって、記載内容を工夫していきましょう。
- ・例えば、地域住民向けのガイドラインを作成するのであれば、気付きのポイントや相談までのフローを複雑にしない、といった「分かりやすさ」を中心に工夫をすることで、より効果的なガイドラインを作成することができます。

### ◆気付きのポイントの整理

- ・ガイドラインの場合、住民の気付きの感度を上げることを目的として気付きのポイントを数多く記載すると、かえって分かりにくくなり、実際には読んでももらえない、活用されない、といったことが起こります。
- ・重要な異変に気付いた場合は、確実に相談につなげるという観点から、数多くの気付きのポイントを示すのではなく、より重要と思われるポイントを整理して示すことを優先します。
- ・以下には、住民向けのガイドラインとして気付きのポイント例を示しています。より分かりやすくするために、項目に合わせたイラストを用いるなどの工夫をしましょう。

## 気付き・相談のガイドライン 〈気付きのポイント例〉

### 外観からの気付き



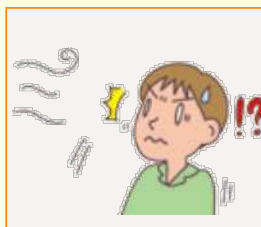
昼間でも電気がついたらまになっている。



何日も同じ洗濯物が干したままになっている。



郵便受けに新聞や郵便物がたまっている。



異臭がする。



庭が荒れている。



家の中から怒鳴り声がある、悲鳴が聞こえる。



□最近知らない人が出入りしている。



□家に閉じこもって、ほとんど外に出てこない。

対面での気付き



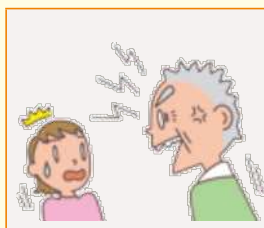
□顔色が悪く、具合が悪そうに見える、急に痩せてきたような気がする。



□今まで挨拶していたのにしなくなった。



□話がかみあわなくなった、同じ話を何回もするようになった。



□暴言を吐くなど、性格が変わった。



□髪や服装が乱れている、季節に合わない服を着ている。



□お店などで、勘定ができない、同じものを大量に購入している。



□身体（顔や手足など）にあざがある、あざがあるが話したがらない。



□認知症や寝たきりの家族を抱え、介護者が疲れている様子がある。

よく見掛ける場所等での気付き



□長い間、顔を見掛けない。



□町内会、サロン、サークルといった地域の集まりや行事にいつも参加しているのに、急に来なくなった。

**1つでもチェックがいたら、「地域包括支援センター・高齢者見守り相談窓口」に御連絡ください(上記以外でも、異変に気付いたら連絡を!)**